

「つながりを大切にした学級経営」～児童生徒アンケートの効果的活用～

宇治中学校ブロック
宇治中学校
菟道小学校
菟道第二小学校

《現状と課題》

- 真面目に学習に取り組む児童生徒が多い。
- 自分の考えを人前で話すことに苦手意識を持っている児童生徒が多い。
- 学校生活に関する質問項目の肯定的な回答が低い(全国学調・府学調)。
 - ・学校へ行くのは楽しい。
 - ・自分の考えを先生や友達に伝えられている。
 - ・担任の先生は良いところを認めてくれている。



《目指す学級像》

教師と児童生徒、児童生徒同士がつながり、信頼し合える学級

《取組》

児童生徒にアンケートを年3回実施し、実態を知る。
その結果と他校種の実践を、小中の教師で交流し、学級経営のヒントとする。



振り返る
交流する

実践する

効果を検証
する

小中合同研修(年4回)

- アンケート結果の分析や実践の交流
- 「安全・安心な学級・授業づくり」についての講演

児童生徒アンケート(年3回)

- ① 学校に行くのは楽しいか。
- ② 友だちと協力するのは楽しいか。
- ③ 他の人の意見を自分の考えと比べているか。
- ④ 自分の考えを伝えているか。
- ⑤ 自分の意見に理由をつけているか。
- ⑥ 担任は、自分の良いところを認めてくれているか。
- ⑦ 気軽に相談できるか。
- ⑧ 担任に言われてうれしかった言葉は何か。



定期的に行い、
エビデンスに基づく分析



《成果》

- 講演をきっかけに、児童生徒との関わり方(つながり方)を幅広く知ることができ、研修会でより議論を深めることができた。
- アンケート結果から、教師と児童生徒のつながりの深まりが見られた。

《課題》

- アンケート結果の分析・活用の仕方に、教師間のばらつきがあった。
- アンケート結果から、教師と児童生徒とのつながりが弱い部分も見られた。

次年度に向けて

- 教職員が児童生徒に毎日意図的に関わることが、学級経営を進める上で大切であることが、アンケート結果から明らかになった。今後は、その関わり方について、交流・実践を深める。
- アンケートを行事後に定期的にとり、すみやかに結果を分析し、日々の児童生徒理解を深め、関わる方法を模索していく。
- 研修会時に、経験年数や校種に関係なく、交流する時間を多くもつ。